

文章題テスト・小説(4)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(校内の水泳大会、百メートル自由形には五人が出場した。五年生の高木達也^{たかぎ たつや}は他の四人がすでにゴールしたのにまだヒツシ^アに泳ぎ続けていた。)

みんなはもう総立ち^{そう}だった。見ている、四年生から六年生まで百二、三十人の目が、プールの一点につきささっていた。

五年生の席から、康一^{こういち}が真っ先に飛び出した。れい子が目を真っ赤^かにして、あとに続いた。実^{みの}も雄吾^{ゆうご}も邦男^{くにお}も、いや、大矢先生^{おおや}もプールサイドにかけてきて、さげんだ。

ヨイシヨ

もう、みんなはあらんかぎりの声でほえた。自分が泳いででもいるかのように、手をふり上げた。足ふみをした。達也^{イチ}は土気色の顔をこちらに^ムけて、それでもちよつとずつ、ちよつとずつゴールに近づいていく。

校長先生の声が飛んだ。

「がんばれっ。負けるな高木。まだまだいけるぞ。」

けれども、ロープにぶつかって方こうを立て直すときには、今にもしずんでしまいそうに、ぐらつとゆらぐ。そしてまた、あのタンチョウ^ウなパチャリという音がよみがえってくる。

2 康一はじれたそうにわめいた。

「タックン。あと、あとは十メートル。もうひと息だぞ。」

しかし、その十メートルの、なんと長いことだろう。助けを、かたくなにおしのけた達也は、今まったくのひとりぼっちだった。ひとりぼっちに見えたとき、ふしぎなことに全員が乗り出したのだった。合唱^エがひびいた。

ヨイシヨッ

「もうすぐよ。」れい子は金切り声^{かなき}でさげんだが、その声は大合唱にかき消えた。れい子は、もう泣いていた。



ゴールが近づくにつれて、大合唱はいっそう高くなった。十人ほどの先生がたも、真っ赤かになってりきんでいる。見ているものにとっては、ただそうするだけしかなかった。たので。

「ぶつかるなよ。」

校長先生がどなった。けれども、達也はオーバーフローにごつんと頭をぶつけ、あきれたことにまたもよたよたとターンしようとした。

4 「あっ。」と、みんなが息をのんだ。そのようすを見るなり、校長先生はすばやくプールに飛びこんだ。細いうでを、ぐいとつかんだ。

「ばかだなあ、ぼうず。もう終わったんだ。」

達也はふしぎそうに先生の長い顔を見上げ、力なくにいと笑った。

「よくやったぞ。」

ふんどし校長はのどにつまったような声をおし出した。達也はかすかにうなずいた。

大きな仕事をやり終わったように、満ち足りた目でもう一度うなずいてみせた。校長先生をおしのけて、自分の力ではい上がったものの、かれはふらふらとよろけた。康一がその冷えオきった親友のからだを、がっしりと受け止めた。

5 はげしいはく手が、どっとわきおこった。子どもたちみんなが笑っていた。先生がたもにこにこ手をたたいた。そのなかで、ふんどし校長だけは長い顔を天におむけて、しきりにあごをひっぱっていた。越智俊一郎おちしけんいちろうは、わけもなくふきこぼれそうになるなみだを、太陽にかわかしているのだった。

(川村たかし「ふんどし校長」による。一部省略)

(注) 金切り声…かん高い声

オーバーフロー…プールのわきにある余よ分ぶんな水みづの排はい水すい口

越智俊一郎…校長先生(ふんどし校長)



1 線ア「オ」について、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア 「必」の訓は「かならず」。

イ 音は「コウ」、向上、方向など

ア 必死

イ 向(けて)

ウ 「単調」とは変化がないようす。「調」の訓は「しらべる」。

エ 「合」の訓は「あーう」、「唱」の訓は「となへる」。

ウ 単調

エ がっしょう

オ ひ(え)

オ 音は「レイ」、冷氣、保冷など。「つめたい」「さめる」という訓もある。

2 線「ヨイシヨ」を、下の「y」に

続けて、ローマ字で書き表しなさい。

ただし、すべて小文字で書くこと。

yoisyo
(y)oisho

「ヨ」yo+「イ」i+「シヨ」syo (sho)。

3 線2「康一はじれたそうにわめいた」とありますが、その理由として最もふさわしい

ものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

達也の泳ぎがあまりにおそれのと、助けようにも見てわめくことしかできないのがじれた理由。

ア 達也の泳ぐスピードがおそく、ロープにぶつかるたびにしずんでおぼれてしまうから。

イ 達也の泳ぐスピードがおそく、助けてやりたいのに声をかけることしかできないから。

ウ 達也がみんなのおうえんの声を聞いていないために、全然スピードが上がらないから。

エ 達也が校長先生の教えた通りに泳いでいないために、全然スピードが上がらないから。

4 線3「よたよたと」と同じように、達也のつかれきったようすをくわしく表していることばを、

泳ぎ終えたあとの場面から五字で書きぬきなさい。

ふらふらと

8行後に「かれはふらふらとよろけた」とある。

5 線4『あっ。』と、みんなが息をのんだ」とありますが、その理由を次のようにまとめる

とき、に当てはまることばを、文中から十字以内で書きぬきなさい。

達也が、ゴールしたにもかかわらず、また 直前で、達也はゴールしたのに「またもよたよたとターンしようとした」とある。

ターンしようとした

から。



6 線5「はげしいはく手」とありますが、どのような意味のこもったはく手ですか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア 校長先生のやさしさと男らしい勇気のある行動をたたえるはく手。
- イ 康一や五年生の仲間全員と達也との美しい友情をたたえるはく手。
- ウ 全員が一体となって最後までおうえんしたことをたたえるはく手。

エ 達也がおくれながらも最後まで泳ぎきったことをたたえるはく手。
 達也がおくれながらも自分の力で最後まで泳ぎきったことをたたえている。

7 校長先生の達也に対する言葉と、そのときの気持ちやようすの変化を次のようにまとめるとき、□に当てはまるものとして最もふさわしいものを、あとのア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

「がんばれっ。負けるな高木。まだまだいけるぞ。」	はげまし、おうえんしている
「ぶつかるなよ。」	心配し、注意をうながしている
「ばかだなあ、ぼうず。もう終わったんだ。」	□
「よくやったぞ。」	ほめたたえ、感動している

- ア いらだち、あきれている
- イ いらだち、ばかにしている
- ウ ① いとおしみ、いたわっている
 ② ふらふらになってゴールした達也をいたわっている。
- エ いとおしみ、なぐさめている

